

管理 No.103 【Weekly CDDP+TS-1併用療法】 2009年4月2日作成

疾患名：進行・再発胃がん 1クール：21日(2投1休) 総クール数：PDあるいはPS悪化まで

1. 薬剤

抗癌剤一般名	商品名	標準投与量	投与日	用量規制毒性
シスプラチン	シスプラチン「マルコ」	20 mg/m ²	Day1,8	腎障害
S-1	ティーエスワン	70 mg/m ²	Day1-14	血液毒性(グレード3以上)、消化器症状(グレード2以上)

2. レジメン

投与日	ルート	投与時間	使用薬剤名	標準投与量	備考
Day1-14	内服(1日2回)		ティーエスワン	70mg/m ²	
Day1,8	点滴静注 (本管)	30分	アロキシ(0.75mg/5mL)	1V	シスプラチン投与開始 90分前 点滴中に、イメンドカプセル(125) 1cap 内服
			デカドロン(3.3mg/1ml)	1A	
			生食 50ml		
Day1,8	点滴静注 (本管)	60分	生食 500ml	1本	シスプラチン投与開始 1時間前
Day1,8	点滴静注 (本管)	30分	シスプラチン「マルコ」	20mg/m ²	
			生食 100ml		
Day1,8	点滴静注 (本管)	2時間	5%ブドウ糖液 500ml	2本	シスプラチン投与終了時より 必要時さらに輸液
			10%塩化ナトリウム注 20ml	1A	
Day1,8	点滴静注 (側管)	30分	フロセמיד(20mg/2ml)	1/2A	シスプラチン投与終了時より
			生食 50ml		
Day2-3	内服(1日1回)	朝	イメンド cap(80)	1cap	

3. 初回投与基準

- PS規定: PS 0~2
- ヘモグロビン \geq 9.0g/dl、白血球数 3500~12000/mm³、好中球数 \geq 2000/mm³、血小板数 \geq 10万/mm³
- 総ビリルビン \leq 2 \times 正常値、AST、ALT $<$ 2 \times 正常値、クレアチニン $<$ 正常値、(クリアチンクリアランス \geq 80ml/min)

4. 休薬基準(休薬を考慮する値・症状など)

- 白血球数 $<$ 2000/mm³、好中球数 $<$ 1000/mm³、血小板数 $<$ 5万/mm³
- AST、ALT \geq 2 \times 正常値、クレアチニン \geq 正常値、(クリアチンクリアランス $<$ 60ml/min)
- グレード2以上の下痢、口内炎、悪心、嘔吐、食欲不振などの消化器症状

5. 休薬後再開基準(休薬が7日以内ならば同一コースとして、8日以上ならば次コースとして再開する)

- AST、ALT $<$ 2 \times 白血球数 \geq 3000、好中球数 \geq 1500/mm³、血小板数 \geq 7.5万
- 正常値、クレアチニン $<$ 正常値、(クリアチンクリアランス \geq 60ml/min)
- 下痢、口内炎、悪心、嘔吐、食欲不振などの消化器症状が回復している。

6. 減量基準(以下の値、症状が出現した場合、次回再開時減量を考慮する。)

- 白血球数 $<$ 1000/mm³、好中球数 $<$ 500/mm³、血小板数 $<$ 2.5万/mm³
- AST、ALT \geq 2 \times 正常値、クレアチニン \geq 正常値、(クリアチンクリアランス $<$ 60ml/min)
- 下痢、口内炎、その他の非血液学的項目がグレード3以上、悪心、嘔吐、食欲不振などの消化器症状がグレード4以上
TS-1 減量の目安 120mg/day \rightarrow 100mg/day \rightarrow 80mg/day \rightarrow 休薬または投与期間の短縮
CDDP 減量の目安 10mg/m²単位を目安とし減量